



看護問題対策委員会ニュース

全日本赤十字労働組合連合会 NO. 13-07 2014. 3. 31

第2回看護助手集会開催

看護助手の労働実態を話し合う

3月21～22日、静岡県熱海市で、第2回看護助手全国交流集会を開催し、10単組、本部役員を含めて25名が参加しました。 昨年の会議で「職場の実態が知りたい」と看護助手労働実態調査を実施し、調査内容を報告しながら、2つのグループに分かれて職場の実態や業務内容など意見交換をおこないました。

研修はあるけど…、拡大していく看護業務に不安

診療報酬で看護助手の配置が評価されるようになり、嚔下障害患者の食事介助や輸液中の車いすの移送など看護業務をおこなっている実態が浮き彫りになりました。施設によっては、食事介助や車いすの移送、輸液ポンプの使い方など研修があるものの、「事故があったときどうすればいいのか、誰が責任を取るのか」や「看護師から指示を受けるが、若い看護助手は看護行為をこの患者さんにおこなってよいものか判断できない」と、率



直な意見や不安がだされました。また、「患者の一番近くにいるのでちょっとした心づかいができる」、「“看護師さんは忙しいから”と患者が話しかけてくる」など、看護助手として誇りを持って業務にあたっていることが語られました。

また、看護助手の夜勤への組み入れや試行を検討している職場の実態が出され、試行された施設でのアンケートでは「看護助手がいたことで看護に専念できた」と意見がある一方で、「全ての責任が看護師となるので看護助手の動きが気になった」との意見もありました。看護助手の業務が拡大している中で、業務内容や賃金、研修制度についても、さらに議論・検討をおこなっていく必要があると感じました。